

我が社の宝

株式会社大翔

技術部 部長代理 今柳田 浩幸

1. プロローグ

私：「社長！農業農村整備情報センターから、『情報センターだより』という冊子の中の“我が社の宝”というコーナーに記事を出してくれないか」というオファーがあったそうです。」

社長：「それ、何？」

私：「61号を見せながら、「前は、サタさんが書いています。」

社長：「いいアピールになるから、書いてよ。」

私：「はあ～。(宝があるかな～)」

ということで、ただいま会社の宝を探し中……。



宝を探す私

2. 宝(その1)「女性社員」

ありました。ありました。大きな宝。それは、我が社を支える女性社員です。本社、鹿屋支店の中で実に1/3に当たる女性社員が活躍しています。

内訳は、正社員4名、パートタイマー7名。職種別では、事務系が3名、技術系が8名となっています。

どんな資格を持っているか、聞いてみました。技術的な資格としては、「RCCM」、「農業土木技術管理士」、「畑地かんがい技士」、「測量士」等々がありますが、そのほか、「リトミック講師」、「英検、漢検2級」、「和洋裁検定1級」という資格を持っている人もいます。つまり、いろいろな経歴を持つ人たちが働いているということになります。

どんな働き方をしているのか、パートタイマーのS

さんの1週間を追ってみました。

曜日	午前	午後
月	会社	会社
火	リトミック講師	会社
水	リトミック講師	会社
木	リトミック講師	会社
金	会社	会社

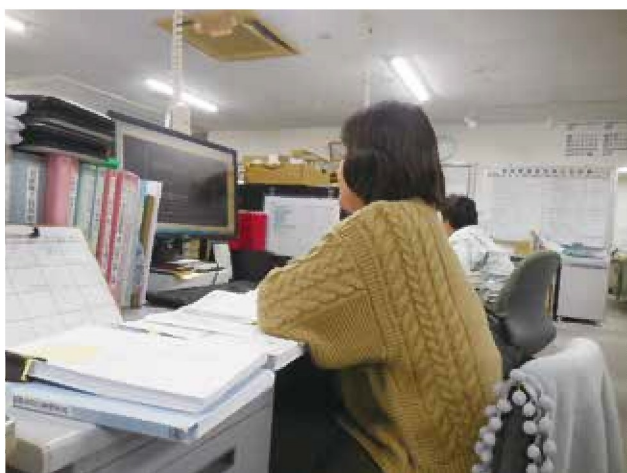
会社でのSさんの勤務は、午前9時から午後5時30分までとなっています。リトミック講師をする火曜日から木曜日は、午後1時からの勤務になります。働く人のライフスタイルに合わせて勤務する時間が決められています。



リトミックを教えるSさん

どんな仕事をしているか、パートタイマーのIさんに聞いてみました。Iさんは、主に橋梁部門の業務に携わっています。

橋梁部門では、補修設計の業務が増えてきています。既存の図面は紙ベースで残っている場合が多いので、まず、CADデータを作成する必要があります。それから、現地調査に基づいて、ひび割れなど損傷図を書き込みます。業務担当者による設計時点では、計算書の整理や設計図の作成を行っているそうです。



橋梁の復元図を作成するIさん

もう一人、鹿屋支店のパートタイマーMさんにも聞いてみました。Mさんは、主に砂防部門で仕事をしています。

砂防部門は、砂防施設の設計や、イエロー、レッドの区域設定のための砂防調査の業務があります。Mさんは、砂防施設の実施設におけるCADデータの書き込みなどを行っているとのことでした。



データ書き込みを行うMさん

主に、農業土木部門の設計業務を担当する係長のTさんにも聞きました。

農業土木部門は、あらゆるタイプの業務が入ってくるので、その都度、勉強しながら対応する必要がありますとのことでした。農道の設計、農地保全水路の設計、畑地かんがいの設計等があります。最近は、農

業用水路の長寿命化に関する業務も増えているので、現地における調査も重要になっていて、遠い地区では、泊り込みで調査に行くこともあるそうです。



現地調査を行うTさん

会社に一番長く在籍する社長代理のIさんに聞いてみました。

以前は、男性だらけの職場で、ときおり激しい言葉も飛び交っていましたが、ここ数年、女性社員が増えたおかげで、職場の雰囲気柔らかくなり、落ち着いた環境になったそうです。また、女性社員の業務に向き合う姿勢がとても真摯で、業務の進みがスムーズになったということです。



さあ、ランチタイム

3. 宝 (その2)「国際交流」

もう一つありました。宝が。それは、国際交流です。「鹿児島の小さい企業だけど、今後はグローバル社会への対応が重要だ」という社長の信念のもと、鹿児島工業高等専門学校と連携して、マレーシア工科大学が主催する研究会に参加しています。

まず、2018年8月にマレーシアのジョホールバルで開かれた、“SEPKA ICEED2018”に参加しました。

最初は、基調講演を聞いて、セッションに参加する予定でしたが、急遽、企業紹介用のコーナーが与えられることになり、あわててブースを設営することになりました。



DAISYOのブース



ブースでの説明状況

ありがたいことに、展示した橋梁等の老朽化と長寿命化対策について、興味を示す参加者が多く、説明に追われることになりました。

次に、2019年2月にクアラルンプールで行わ

れた“GEOTROPIKA-ICHITRA2019”に参加し、橋梁担当次長のFさんが、“The Maintenance for Present Infrastructures in Southern Part of Japan”のタイトルで、主に橋梁を取り上げ、コンクリート構造物の特徴的な変状とその要因、要因に応じた対策の実例について講演を行いました。



講演を行うFさん

さらに、交流は続きます。国立研究開発法人科学振興機構 (JST) が実施する「日本・アジア青少年サイエンス交流事業 (さくらサイエンスプラン)」により、マレーシア工科大学の学生等12名が来鹿し、6日間の研修を行うことになりました。

我が社は、2020年1月23日に、「日本の地方における構造物の長寿命化の取り組みについて学ぶ」というテーマで、説明や学生との意見交換を行いました。



学生との意見交換

また、現在、JICAのシニアボランティアとして副社長のNさんが、ブラジルのサンパウロ州に派遣されています。日系の福祉施設における日本庭園の基本設計が主な業務になっています。ブラジルの習慣とポルトガル語に戸惑いながらも、頑張っているそうです。



庭園予定地で打合せをするNさん(右)

【会社情報】

株式会社大翔

代表取締役: 西山 哲郎

創業: 昭和50年8月

従業員数: 40名

本社: 〒890-0001

鹿児島市千年2丁目1-1

TEL: 099-218-3041 / FAX: 099-220-6201

E-mail: info@daisyoc.jp

URL: http://www.daisyoc.jp



大翔本社

4. エピローグ

私 : 「まだ、他にもドローンの空撮、点群データ処理とか、資格取得のサポートとかありますが、どうしますか？」

社長: 「いろいろ書いても、どこの会社もやっているようなことは、誰も読んでくれないかも。」

私 : 「それじゃ、我が社の宝はこの二つということで投稿します。」

社長: 「私がいつも言っている言葉があるでしょう。あれも、書いておいてね。」

私 : 「あれですね。『花には水を 人には思いやりを』」

